



なかじま ひでお  
中島 英雄 さん（蒔田）

市と強力タッグでインフラを守って  
いこうという熱い想いに感動し  
ました。

同組合は、昭和40年代に下館市に  
本社を置く管工事業者が連携し、地  
域振興と生活環境改善を目的に下館  
市管工事組合として設立されまし  
た。現在は16の事業所が加盟してい  
て、県内では9番目に多い水道専門  
の組合です。給排水設備の施工・保

## これまでの歩みと目的

私たちが生活していく上で欠かす  
ことのできない存在である水道。そ  
んな市民の暮らしを支えるインフラ  
の要を、長年に渡り守り続けている  
団体の一つが下館地区で活動する筑  
西市管工事組合です。今回は、同組  
合の地域貢献活動や今後の展望につ  
いて、手面和夫会長と組合役員のみ  
なさん取材しました。

# 市民の安心安全な暮らしの要 筑西市管工事組合の使命



守など幅広い業務を担うことで地域  
住民の生活環境向上を図っていま  
す。

## 災害から市民の生活を守る 地域密着型の活動

同組合は、市との防災協定など協  
力関係を強化しながら、公共工事へ  
の参画はもちろん、緊急漏水対応や  
量水器取替業務、地域イベント協賛  
やボランティア活動にも積極的に取  
り組むなど、普段から組合員同士の  
コミュニケーションを密にしていま  
す。これが有事の際にも迅速な対応



手面会長（前列中央）と組合役員のみなさん

夢中で修理し稼働させました」と話  
す手面会長。少しでも早く復旧させ  
ようと、懸命に力を尽くしたみなさ  
んの想いに心を打たれました。

## 抱える課題とこれからの未来

「少子高齢化による技術者不足や老  
朽化した配水管などの対応がこれか

に結びつくようで、それを強く実感  
したのは東日本大震災の時だったと  
います。

「震災の日は断水が発生していてど  
こで漏水しているか分からない状況  
でした。震災当日の夜中、成田浄水  
場に全組合員が集まり、懐中電灯片  
手に市内全域の漏水調査をしまし  
た」と当時を振り返るみなさん。さ  
らに「浄水場の部品が破損して水が  
溜まらない状況でした。専用の部品  
もない中、どうにか復旧しようと手  
が冷え切っていることも忘れて無我



水道管を修繕する様子

らの課題になる」と語る手面会長。  
技術の継承が重要と考え、若手技術  
者に県管工事連合会で開催している  
講習への参加を呼びかけ、技能習得  
を図っているそうです。

「柔軟に変化を受け入れながら、市  
と協力し、専門的な公共工事に幅広  
く取組んでいき、地域に根ざした工  
事を続けることが組合の使命」と話  
す組合のみなさんの言葉からは、そ  
の技術力でインフラを守り続けてい  
る熱量が伝わります。

## 取材を終えて

当たり前のように利用している水  
道の「安心」ですが、時には緊急性  
が求められる厳しい現場があり、実  
績に裏打ちされた技術力と組合のみ  
なさんの連携のおかげで維持されるのだ  
と改めて感じました。



作業の様子  
はこちら